

“聴力”がものをいふ外国語学習

幼児期から始めるべき学習として、前の章で「漢字の学習」を強調しましたが、漢字に続いては「外国語の学習」を挙げたいと思ひます。この広い世界においても、日本人くらゐ外国語の学習に下手な国民は無いでせう。頭の働きは良い日本人であるのに、どうして外国語の学習となるとこんなにも下手なのでせうか。

その原因は日本人の“耳”に在るのです。外国語の学習に最も必要な能力は“聴力”なのです。その聴力が日本人はひどく貧弱なのです。では、どうして日本人は聴力がそんなに貧弱なのでせうか。その理由は、第1に日本人は日本語以外の言葉を聞く機会が殆ど無いままに育つからであり、第2にはその日本語が世界一「音韻の種類が少ない」からであります。

耳は初めからいろいろな音を聴き分ける能力を具へてゐるのではありません。聴力は幼児期に作られますが、それはいろいろな音を聴く事に依り、それらの音をそのままに正確に受取る機能が脳の神経細胞に備はって行くからなのです。ですから、毎日豊富な音韻を聴いて育った幼児の耳は、貧富な音韻を正確に聴き分ける能力を有つやうになりますが、貧弱な音韻しか聴かないで育った幼児の耳は、豊皆な音韻

を正確に聴き分ける能力が育たないで終るのです。

又、耳がいろいろな音韻を聴き分けられないと、それらの音韻を発声する能力も育ちません。耳が、自分の発声する音韻を既に頭の中に収められてゐる音韻と比べながらこれを調整するわけですから、耳が正しく聴き分けられない音韻は、これを正しく発声する事が出来ないのであります。それは「生まれながらの聾者は啞者にならざるを得ない」のと同じ道理であります。

このやうな訳で、日本人は複雑な外国語の音韻を聴き分ける事が出来ず、従って正しく発音する事が出来ません。音感教育で有名な木下達也氏の言に依れば「3・4・5歳の幼児に同じ音感教育を始めると、3歳児は4歳児の半分の時間で済むが、5歳児は4歳児の2倍の時間が掛かる」と言ひます。このやうに聴力の教育は早い程有効なのです。